

症例報告

一般社団法人 巨樹の会
 小金井リハビリテーション病院
 リハビリテーション科
 OT 志村

はじめに

重度の左片麻痺、高次脳機能障害を呈した患者を担当した。

身体機能の低下や全般性注意障害の影響により移乗動作の介助量が多い状態であった。

今回は排泄の際に必要な移乗動作に着目した。自宅にて安全に排泄を行うためには、どのようにしたら良いかアドバイス等を頂きたい。

症例紹介

- 氏名:A氏
- 年齢:70歳代後半
- 性別:男性

● 疾患名

脳梗塞(左小脳)

脳出血(脳室内穿破・右前頭葉・頭頂葉)

- 既往歴: 2004年 突発性右顔面神経麻痺
- 2010年 狭心症、両側腎動脈狭窄
- 2016年 腹部大動脈瘤(ステント留置)

- 要介護度:要介護5

症例紹介

- 本人の希望

入院時:トイレ内での動作を自分で行えるようになりたい

退院時:退院後は友人の集まりに行けるようになりたい

- 家族の希望

● 自身で行える事は自身で出来るようになってほしい

● 移乗動作の介助量軽減

- 妻との関係性

● 病前:休日は、妻と二人でゴルフを行い、A氏が妻に対して注意や指示をしていた。

● 病後:妻の言う事に対して、すべて従う関係。

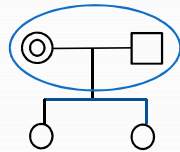
- 本人の性格

病前:自室の整理整頓等、すべてに対してきっちりされていた。

病後:身の周りの事や、自身の事に対して楽観的でおおざっぱな性格。

病前の生活状況

- 家族状況:妻と同居
- KP:妻
- 家屋状況:持家、二階建て自室は2階
- 職歴:貿易会社 本部長にて営業まわり
- 趣味:妻とのゴルフ、散歩、海外旅行
コンサート鑑賞、野球観戦
- 病前の生活
- 毎朝7時に起床
- 散歩が日課であり自己にて血压管理していた
- 健康に気を使っている方。家族で出かける際は、車を運転し出かけていた
- 循環器内科へ公共交通機関を使用し通院していた。



評価

- MMSE:27/30点 (減点項目:計算問題)
- Brs: 上肢Ⅱ-手指Ⅱ-下肢Ⅲ
- 感覚:麻痺側、表在・深部感覚共に鈍麻
- ROM:左肩関節 屈曲110° 外転100° (P)
- FBS: 5点
- GMT:患側上下肢:2レベル
健側上下肢:5レベル 体幹:4レベル
- 高次脳機能障害:持続性注意障害、左半側空間無視
構音障害(理解・表出:良好)
- TMT: 所要時間(2分16秒 左への見落としなく正確)
- BIT:合計得点(125 /146点)

移乗動作(訓練時)

- セラピストによる口頭指示がある状況で、自己にて車椅子を駆動し、フットレスト・ブレーキ・足の位置の確認、車椅子の停車位置等のリスク管理が行なえている。
- 前方への手すり支持にて、重心移動が行なえ、見守りで起立が可能。また、左右へのふらつきもみられない。
- 立位保持が安定してから、非麻痺側のステップにて方向転換を行なえている。動作に早急さがあるため軽介助をしている。
- 着座時にゆっくりと座る事が出来る。

移乗動作(起床時、夕方)

- 口頭による指示が入りずらく、注意散漫であり動作に対して早急さが見られる。
- 自己にて車椅子を駆動し、フットレスト・ブレーキ・足の位置・車椅子の停車位置の確認が曖昧な状況で、手すりを使用し起立体勢をとってしまう。
- 手すり支持にて、後方重心のまま手すりを引っ張るようにして起立動作を行う為、介助を必要とする。
- 姿勢が崩れた状態でステップが出ていないにも関わらず方向転換を行ってしまう。
- 便座の確認をせずに、後方へ倒れ込むように勢いよく着座してしまう。

自宅のトイレ



提案を行ったベッド (3モーター式ベッド)



検討内容

- 妻が排泄介助を行う場合
- ベッド⇔車椅子間の移乗をする場合

上記の環境設定についてアドバイスを頂ければ幸いです。
宜しくお願い致します。